第5学年 家庭科学習指導案

1 題材名 「かたづけよう身の回りの物」」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は学習指導要領の内容C-(2)ア「住まい方への関心,整理・整とん及び清掃の仕方の工夫」を受けて構成した学習である。

生活が多様化複雑化する中で消費生活を巡る環境は児童に大きな影響を与えている。物に溢れ欲しいものを容易に手に入れることができる環境の中にいる。物を購入する際に、必要感よりも「欲しい」「おもしろい」「かわいい」という理由で物を購入することが多い。さらに、使っているものが壊れたり、無くなったりするとすぐに新しいものを購入していることがみられる。このような状況において、溢れている物を整理する際には、整理しきれず、安易にごみとして処分する方法を選んでいることもある。物を大切に扱う気持ちが薄れてきているように思われる。また、忙しさから、手間をかけずに物事を行おうとすることが求められていたり、食生活に関することは優先するが、物を使った後そのままにしているなど、住生活に関する掃除や整理・整とん等は後回しにしたりすることが多い。そのようなことから、整理・整とんすることが苦手になっている現状がある。本題材では、気持ちよく生理・整とんすることが苦手になっている現状がある。本題材では、気持ちよく生理・整とんをし、ごみや不用品の処理ができるようにすることをねらっている。

(2) 児童の実態

(3) 指導観

整理・整とんの指導では、見た目を良くするために片付けるだけではなく、次に使うことを目的にしていることに気づかせる。「何が何処にあるか」「必要な物がすぐに取り出せる」「出して使った物がしまいやすい」「出し入れにけがや危険がない」「さらに見た目が美しい方がよい」「不用品は適切に処分し、収納空間を有効に使う」を原則にしているが、整理・整とんをする物や、用途や機能、形状やサイズ、使用頻度、材質や色彩など、観点が様々である。各自の生活行動が関係するので、基本的なことを押さえるため、まず、学校内に目を向け、家庭科室や教室の引き出しに焦点を当て自分の身の回りの物を見つめることから学習を進めることにする。

整理・整とんの工夫をする際には、仕切りで区切る方法で使う「空き箱、牛乳パック、厚紙、段ボール、空き瓶など」を利用し、不用品の活用やごみの始末をする学習と関連させる。不用品の活用やごみの始末の仕方の学習では、地球環境に影響のあるごみ問題を解決するため、不用品の再利用だけではなく、生活の仕方を見直し、ごみを出さずに済ますことを意識させることが大切である。

3 校内研修との関連

研究主題「生活を自らよくしようとする実践的な態度の育成」

視点2

健康に生活することのよさや快適に生活することのよさに気づくことができる指導の工夫

手立て

体験的な活動の実践

学校で使っている引き出しを身近な素材として活用する。乱雑になっている引き出しを観察させ、実際に整理・整とんする活動を行わせる。そこで整理・整とんの必要性を感じたり、整理・整とんされている状態が使いやすく快適に感じたりすることができると考える。また、整理・整とんする具体的な方法を学び、自らの生活に生かそうとする態度を育成する。

4 題材の目標

・身の回りの整理・整とんに関心をもち、気持ちよく過ごそうとする。

【関心・意欲・態度】

・整理・整とんの仕方がわかり、工夫できる。

【創意・工夫】

・ごみの始末や不用品の活用の仕方を工夫し、環境を考えた生活の仕方がわかる。

【創意・工夫】【知識・理解】

5 全体計画(4時間扱い)

題目	時	主 な 学 習 活 動	評 価 (観 点)
①身の回りに目を向けよう	1 (本時)	一散らかっている引き出しの中を見て気づいたことを話し合う。一調べたことを発表し合い,整理・整とんの観点を話し合う。一乱雑な引き出しを整理・整とんする。	けて, 気持ちよく生活する ために整理·整とんをしよう
②整理・整とんをしよう	2	○学校生活の場所に目を向け、整理・整とんの様子を調べ、整理・整とんについて考える。 ○学校での整理・整とんの実習計画を立てる。 ○実習計画を元に実習計画を実践する。 ○それぞれが実践した整理・整とんのアイディアを発表する。 ○友達の工夫点の中で自分の生活に生かせる点をまとめる。	り、自分の身の回りを整理・整とんする計画を立てることができる。 (知・創) ○不用品を活用して整理・整とんを工夫することができる。(技・創) ○友達の工夫点を自分の生活
③物を生かす くふうをしよ う	1	○ごみを少なくする方法を話し合い,まとめる。○自分たちの地域のごみの分別の仕方に従ってごみを分ける。○自分のごみの出し方を見直す。	○不用品の多さに気づき不用品の多さに気づき不用品を活用する方法を理解することができる。(知) ○ごみの出し方が分かり、ごみを少なくする方法を工夫することができる。(知・創) ○ごみの始末や不用品を活用することができる.(技)
自分の家の整 理・整とんを しよう	課外	○家庭で実践し記録する。	

6 本時の指導(1/4)

(1) 目標

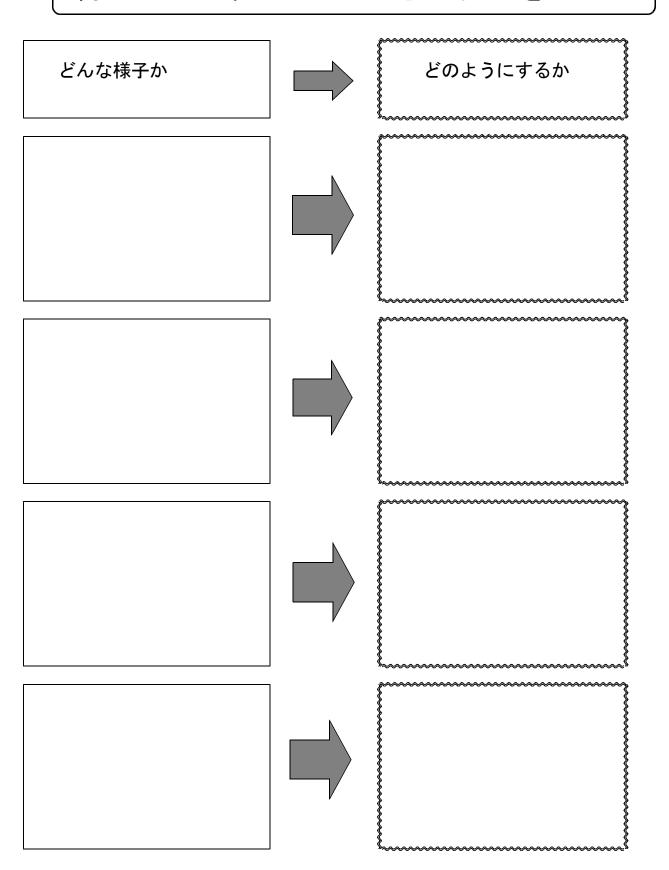
・自分の生活の場所に目を向けて、気持ちよく生活するために整理・整とんをしようとする。 【関・意・態】

(2)展開

時配	学 習 活 動	支援と評価(*)	資料
7分	 本時の課題をつかむ。 (1)引き出しの中から指定された物を取り出せない。・ なかなか取り出せない。・ 見つからない。・ 見つからない。 (2)整理・整とんされていない。 (2)整理・整と見て気がいたことを発表である。・ でちない。・ きたない。・ きたない。・ 何がどこにあるかわからない・ ごみがけた方がよい。・ 片づけた方がよい。 		
20分	何とかしようよ! この 2. グループで話し合い, 引き出し の中を整理・整とんする。 ・いらない物を捨てよう。 ・分類しよう。 ・大きさをそろえよう ・よく使う物を手前の方にしよう。 ・仕切りをつけよう ・刃物は他の入れ物に移そう。		- ⊦
15分	3. グループで工夫したことを発表する。「△△△になっていたので ○○○という工夫をしました。」	・発表を分担させ、なるべく全員 に発表の場を設けるようにさせ る。 *自分の生活の場所に目を向け て、気持ちよく生活するために 整理・整とんをしようとする。 【関・意・態】(ワークシート・発言)	
3分	 4.整理・整とんの意味と必要性をまとめる。 ◎次に使うとき、使いやすく、取り出しやすいようにする。 整理:使うかどうかを考え必要なものを残すこと 整とん:整理した物を使いやすくかたづけること 	・子ども達の発表を元に,整理・ 整とんするのは気持ちよく過ご すためにすることに気づかせ る。	

5年 家庭科 「かたづけよう身の回りの物」 ワークシート 5年 組 名前

何とかしようよ! この引き出しを!!



5年 家庭科 「かたづけよう身の回りの物」 ワークシート 5年 組 名前

1. 整理・整とんは	何のために行うのでしょうか。
2. 学校の中で整理う。	・整とんが必要なところを探し、整理・整とんしよ
整理・整と/	んが必要なところ
場所	どうなっているのか
	整理・整とんしよう